

強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。早いもので「東大日本史のみかた」の連載も3年目を迎えることになりました。今年度もよろしくお祈いします。

今年度も東大の最新問題の解説と、その問題の根底にある「東大が受験生に問いたい（知っておいてもらいたい）日本史」について考えていきたいと思ひます。また、最近自分の教える生徒の答案を添削しながら、「（日本語としては）よく書けているが、（問題の解答としては）点にならない」ものを目にするので、ここではそのあたりにも触れていけたらと考へています。

第9回となる今回は2011年の東大日本史の第1問を取り上げてお話をしていきたいと思ひます。さあ、1週間、しっかり問題を考へてみてください。

【2011年度 東京大学 文科前期 第1問】

663年に起きた白村江の戦いとその後的情勢に関する次の(1)～(5)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。

- (1) 664年、対馬島・壹岐島・筑紫国等に防人と烽火^{とぶひ}を置き、筑紫に水城^{とうほんしゅんしよ}を築いた。翌年、答炆春初^{とうほんしゅんしよ}を派遣して長門国に城を築き、憶礼福留^{おくらいふくる}・四比福夫^{しひふくふ}を筑紫国に派遣して大野城^{きい}と基肆城^{きい}とを築かせた。
- (2) 高句麗が滅んだ668年、新羅からの使者に託して、中臣鎌足は新羅の高官金與信^{きんゆしん}に船1隻を贈り、天智天皇も新羅王に船1隻を贈った。唐に向けては、翌年高句麗制圧を祝う遣唐使を送ったが、その後30年ほど遣使は途絶えた。
- (3) 671年、倭の朝廷は、百濟貴族の余自信^{よじしん}・沙宅紹明^{さたくしやうみやう}・憶礼福留^{おくらいふくる}・答炆春初^{とうほんしゅんしよ}ら50余人に倭の冠位を与えて、登用した。
- (4) 百濟救援の戦いに動員された筑紫国の兵士大伴部博麻^{おおともべはかま}は、ともに唐軍に捕えられた豪族の筑紫君ら4人を帰国させるために自らの身を売った。博麻が新羅使に送られて帰国できたのは、690年のことであった。
- (5) 『日本靈異記』によれば、備後国三谷郡司の先祖は、百濟救援の戦いに赴いて無事に帰国したのち、連れ帰った百濟人僧侶の力を借りて、出征前の誓いどおり、郷里に立派な寺院を建立したという。この寺院は、発掘調査された寺町廃寺である。伊予国の郡司の先祖についても、同様の話が伝わる。

強者の戦略

設 問

A 白村江の戦いに倭から派遣された軍勢の構成について、1行以内で述べなさい。

B 白村江での敗戦は、日本古代の律令国家の形成にどのような影響をもたらしたのか、その後の東アジアの国際情勢にもふれながら、5行以内で述べなさい。